

骨について

船 木 満 洲 夫

骨は鳴かない

代ってせみが鳴く

骨は舞わない

代ってちやうが舞う

暑い昼下がり

トラツクの子車輪の下に白く光る骨を見たのだ

もんしろちやうが入り乱れ

夕立ちのあと どこから来たのか

みんなみんぜみが鳴いているのを聞いたのだ

（波打ちぎわの黄色い骨にちやうがとまっている）

—— そんな場面を何かで読んだことがある）

朝のラッシュ時は

次々と疾走する車に前後をはさまれ

市電の安全地帯に男女の群れが立つ

黙って思い思いの方向を向き

あんな骨でよく立っておれるものだと思わせて

(同じように思ったことがあると友人が言う

そして女の骨格は四つんばいに向いていると真顔で付け加える

このことを女に伝えると女は同意し

それに羽が生えているのだと言って

上体を前にかがめ両手をうしろに伸ばしたのだ)

骨の受難はつづく

骨は静止した秘密 十字架

ちようやせみと同族のスタイルだ

